

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 星の家 2階	評価実施年月日	平成21年2月25日
評価実施構成員氏名	2階(織姫) 辻 るみ・伊藤めぐみ・千葉晴美・渡辺香奈恵・梅本舞・荒木和美・和崎久美子・笹井友見		
記録者氏名	松崎 真由美	記録年月日	平成21年2月26日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>「人格の尊重」「地域」に愛され、信頼される事業所独自の理念を作りあげている。</p>	○	<p>理念に基づき、地域の方々に、愛され、信頼されるグループホームを目指し、今後も取り組んでいきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>各フロアー、スタッフルーム、掲示しており、理念を共有しているも、日々の中で特別話し合った事は少なく取り組みに欠けている。</p>	○	<p>人格の尊重・楽しみのある空間作りは常に努力し続けている。今後は地域との関わりにつきホーム全体で取り組んでいきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>家族会や運営推進会議にて、お話をさせて頂いており、町内会へ入会し理解してもらえる様取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>散歩時、挨拶程度であり、日常的なつきあいは出来ていないが、近所のボランティア団体の方々が月に1度来訪され、歌や踊り、紙芝居等して頂いている</p>	○	<p>挨拶だけではなく、いつでもホームに立ち寄って頂ける様声をかけていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会入会し、会報や回覧板を通じて、花壇作り、清掃等へも参加し交流には努めている。又、近くの保育園児が歌やお遊戯を披露してくれたりしている。子供110番の家にもなっている。</p>	○	<p>花壇作りや清掃時間帯が早い事等から、入居者様との参加が出来ないが、今後、時間帯やスタッフ等の状況をみて参加できる様取り組み、町内会の行事にも参加し、交流を深めて行きたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の民生委員の方、町内の役員の方々と、近隣の独居生活の方、高齢者世帯の方々の実情に対して出来るだけ協力していきたいと話合いを、前管理者が実施されていた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>外部評価、自己評価の実施について全スタッフに理解される様な取り組みが出来ておらず、具体的な改善策についても全職員で話合う場を持っていないが、運営者、前管理者が取り組まれ少しずつだが、地域の方との交流が増えてきた。</p>	○	<p>意義についてしっかり話し、今後改善策についても全体会議を持ち取り組んでいきたい。(今回、自己評価表、全スタッフに配布し記入してもらい、管理者が集約し作成を行った)</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>昨年は開催回数が少なく、会議後の話し合いの場は設けていなかった。</p>	○	<p>全職員が運営推進会議の意義を理解し、会議後の報告や話し合いを持ち、サービス向上へつなげられる様取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議以外にも、電話や市役所、区役所に足を運び、様々な中で活かしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>前管理者、介護支援専門員は研修等で学ぶ機会があり制度を利用されている入居者様もおり支援しているが、全職員への周知はされていない。</p>	○	<p>制度を利用されている入居者様もおり、今後、勉強会等開催し全職員へ周知できる様取り組んでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待につながるケアをしていないか、職員一人一人が自覚を持ち防止に努めている。</p>	○	<p>上記同様、勉強会を持ち虐待防止の徹底に取り組んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>不安や疑問点について、時間をかけ話し合い、十分な説明の上、理解・納得をいただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情を訴えられる関係作りをしており、それらを反映している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族が来訪時には必ず近況報告、往診や受診後の記録を説明、見て頂き確認のサインを頂いている。緊急性の高い事柄や御家族が遠方の方にも電話にて報告し御本人と、お話しいただく事もある。金銭管理に関しては、事務所にて、お預かり金個人ノート確認サイン頂いている。職員の異動については報告していない事が多い。	○	今後、ホーム便り等を作成し、暮らしぶりやエピソード、行事予定、職員の異動の報告が出来る様、取り組んでいきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族より、来訪時や行事参加時コミュニケーションを図り話やすい環境作りに努め、意見、不満、苦情について、家族会の開催や意見箱を設置している。第3者機関へ電話相談出来る様、相談窓口も設置している。	○	家族会、開催後の報告が全職員に伝わっておらず、不満・苦情についても、会議等で全スタッフに周知し、改善しながら運営に反映出来る様、取り組んでいきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング開催時、スタッフの意見を聞き入れる場を設け、反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	経営者も含め、ホーム全体で状況を把握、調整し確保できる様にしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を最小限にしたいが、体調不良や家庭の事情により退職された場合は、入居者様、個々に合わせた対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修を受ける機会が確保され、進められている。</p>	<p>○</p> <p>どのような内容の研修に参加されているのか、全職員に知らされていない事が多く、研修報告書作成し職員間での共有化を図れる様取り組みたい。又、ホーム内での研修や勉強会の機会も少ない為、開催機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>前管理者は、管理者会議に参加され他の事業所の管理者と連絡を取り合い、情報交換・コミュニケーションを取り合い、サービスの質の向上に取り組まれていた。</p>	<p>○</p> <p>今後も会議への参加を継続し交流を図りながら、サービス向上へ努めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>毎日スタッフと会話する時間を持ち精神面・体調面も気配りされている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>一人一人の状況を把握し、励ましの声をかけられ努められている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>御家族からの相談が第1となる事が殆どであるが、必ず御本人に、お会いし不安や求めている事を聴き受け止めている。自分の思いを訴えられない方に関しては、表情や口癖等から読みとる努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>電話、来訪、訪問し、時間をかけ聞き取り、受け止める努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかりと相談内容を把握し見極めながら、他のサービスの説明をさせて頂き対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には御本人、御家族の都合に合わせて、ホーム内見学、雰囲気を感じ取って頂く。場合によっては自宅に訪問させて頂き生活空間を大きく崩さない様、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事作業を一緒に行ったり、テレビを楽しんだりと思いを共感しながら、お互い助け合い、支えあう関係を築いている。	○	入居者様により、お世話になっている気持ちが強く表れる場面もあるが、私達も、学ばせてもらう事ばかりである事、常に感謝の気持ちを忘れず、より一層支え合う関係が築ける様、努力していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や行事への参加等で、御本人に対する思いや情報を得、一緒に御本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会だけではなく、外出・外泊もされ、電話利用や手紙・年賀状のやりとりで、より良い関係作りが築ける様支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人の方と電話で話されたり、来訪もみられている。又、会話の中にも取り入れ支援に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係の把握に努め、共同空間、各居室を有効活用しながら、支え合える様、支援している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後、継続的な関わりが必要であった利用者や御家族は少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いを傾聴し、表現が困難な方は毎日の言動、表情から読み取る努力をしている。	○	認知症状の進行に伴い、御本人が一番望んでいる事が日々変わっている事もあり、今後も小さなサインも見逃さない様取り組んでいきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	独居生活をされていた方、御家族と疎遠となられていた方の、経過の把握が難しい部分があるが、御本人との会話や言動の中で把握できる様努力している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日、要観察しケース記録に記入し、申し送り、ミーティング等で現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御本人の思いは、毎日の会話や言動、表情から読み取り、御家族の意見は面会時、必要に応じ電話で話しをしている。入居時の計画作成時は関係者より情報提供により反映し、スタッフ間でのミーティングの中で意見交換し作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	かかりつけ医の往診や協力病院での受診、訪問歯科医も利用し、適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医は24時間対応可能となっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけの脳神経外科受診、MRIや長谷川式簡易知能評価スケールを受け、進行の状態など適切に支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を確保し、相談しながら健康管理、医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、必ず病院へ行き、御家族も交え情報交換、相談しながら早期退院に向け取り組んでいる。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	昨年、御本人、御家族の強い意向により、主治医、看護師協力の基、スタッフ一丸となりターミナルケアに取り組み、看取りを行った。	○	重度化した場合における対応に関わる指針があり、今後も御本人、御家族との話し合いを持ちながら取り組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できる事、できない事を何度も話し合いながら、検討、準備し取り組んだ。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	御家族や御本人に関わるケア関係者間で話し合いや、情報交換を行い、ダメージ防止に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフは言葉かけや対応に常に気を配り、個人情報が必要以上に出さず、申し送り時もイニシャル呼びや声のトーンに気をつけている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合わせた説明の仕方、自己決定を基本とし支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを大切に、その日の希望を極力聞き入れているが、状況に応じ対応出来ない時もある。	○	入浴日や体調不良者の急な通院介助が入ってしまうと、スタッフの人数確保が出来ない時間帯があり、外出希望者の対応が出来なくなってしまう為、今後の課題である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容を定期的に利用されており、入居前より行きつけの美容室が決まっている方は、御家族協力もあり継続できている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の好きな物、嫌いな物、出来る事、出来ない事の把握を行い、五感に働きかけながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、喫煙、晩酌希望者はおらず、お酒の提供は体調面や服薬内容により主治医と相談の上、提供する機会を作っている。飲み物に関しても好みの物を体調面を考慮しながら提供している。	○	おやつは入居者が好むような物を提供しているが、今後食べたいおやつを話し合い、手作りや、買い出しに行く機会を増やしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表活用し、排泄リズムや失敗回数、尿意や便意を感じられているのを見極めながら、安易なパット装着は避け気持ち良く排泄できる様支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1日おきの入浴を実施しているが、希望やタイミングに合わせられていない。	○	入浴日は決めず、夜間浴は難しいが、いつでも希望に沿った入浴が楽しめる様、検討したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々に合わせた時間帯で、日中でも居間にて眠そうにされている方は声をかけ、自室で休んでいただいたり、就寝時間も全て個別対応の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	御家族の方から得た情報と、入居者の意見を取り入れ、個々の力を活かした時間作り支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望や力に応じ、小額の所持は出来る様支援している。	○	買い物等での支払い能力までは、しっかり把握できておらず、今後使い方の支援も支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬場は天候にもより、外に出られる機会が少ないが、その日の希望に応じ、散歩や買い物に出かける機会を多く作っている。	○	今後も外に出られる様支援していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	冬期間は外出回数も少ないが、春、夏、秋は季節に応じ、何処に行きたいか何がしたいか希望を聞き入れ、応じられる範囲で実施している。	○	温泉の1泊旅行の話題はしている為、検討し実施したいと思う。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望に応じいつでも使用していただき、(スタッフ介助の上)、手紙ではないが、年賀状のやり取りは支援している。	○	手紙についても今後支援していきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族様の訪問は多く、知人、友人の方もたまに来訪され居心地よく過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを行っているが、ベットより転落防止の為に柵使用や窓より身を乗り出す方の転落防止のストッパー設置について、承諾書作成し説明・同意を頂いている。全スタッフが禁止の具体的な行為を正しく理解しているかは疑問である。	○	全職員が正しく理解できる様、勉強会を開き取り組んでいきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけない事の弊害を理解し、夜間以外は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室で過ごされて居る時は随時訪室、夜間は2時間おきの巡回、その日の状態に合わせて安全確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険をすぐに失くすのではなく、個々の状況に応じた取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時に備えてのマニュアルの設置、ヒヤリ・ハット、事故報告書作成、活用し取り組んでいるが、全スタッフで知識を学ぶ機会はなく、対応策も、しっかり話し合う場を設けていない	○	事故後の対応策を全スタッフで話し合う場を、しっかり持ち、勉強をしながら今後取り組んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	○	救命救急の講習を多くのスタッフに受けてもらい、ホーム内でも定期的な勉強会を開催したい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて、話し合いを持ち、今年の防災の日に訓練を実施する予定である。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	御本人の状態に合わせて、転倒の危険や内服薬の変更前等には必ず話し合い説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックはもちろんの事、毎日の観察をケース記録に残し、いつもと違う行動や顔色の異変に気づける様、情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ケースファイルに処方箋を保管し、内容の変更があった際は、医療ノートや連絡ノート、業務日誌等利用し確認しているが、全スタッフが内服薬の副作用を理解できているかは疑問である。	○	服薬により、事故に繋がる恐れはある為、今後記録物だけではなく、口頭での説明、常に見直しをしていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々に合った運動や、飲水内容の工夫も行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケア、義歯装着者の方は就寝前に洗浄剤に浸けおきしている。口腔状態に応じ、歯科衛生士さんによるケアをうけている方もいる。	○	朝・夕は徹底しているが、昼食後は徹底されておらず、取り組んでいきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に合った分量、食べやすい大きさも考慮し、支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年行い、定期的な血液検査、手洗い後の消毒、外出後のうがい、手洗いは、徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	2日分で食べられる量を購入、毎日、まな板、布きんの漂白、キッチン内床も毎日掃除し、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには、花を置く、冬季クリスマスにはイルミネーション等、季節を感じてもらえる様工夫している。玄関は足元の安全を図る為、十分な広さがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各フロアー、居室等、季節感を感じられる飾り付け、照明にも気配りし、テレビや音楽の音量にも気配りし、居心地よく暮らせる様、配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファー、テーブル席、状況に応じ位置換えしたり、ゆっくりと過ごせる様工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、御家族にはなるべく使い慣れた物、見慣れた物をと話しているが、物の大きさ等、外出時の為と新しい物を購入される御家族もいらっしゃる。極力、馴染みのある物を置いて頂き、居心地よく過ごせる様にしている。	○	認知症の進行に伴い、本当に居心地が良いのか、物の配置はどうなのか、各入居者様に応じ、関わりの中で見出しながら、取組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各フロアーの換気、温度調節はこまめに行っている。湿度対策とし、洗濯物や濡れたバスタオル干し実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下や階段への手摺の設置、入居者様の状態に合わせて居室への手摺設置、家具等の位置、個々に使い安い様、工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来ている事、出来なくなってきている事を見極め、持っている力を引き出せるような場面作りを行い、自立支援に努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	小さい畑だが野菜作り育て収穫している。夏場は玄関にベンチ設置し日光浴や玄関前にて、焼肉等の行事も行っている。	○	苗植えからの参加が出来る様今後取り組みたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) * 私達スタッフはケアをする意識ではなく生活者と考え、入居者様との信頼関係を大切に持っている力を引き出し、出来ていることを継続できる様支援、感情をそのまま出せる環境作りを心がけている。アットホームな雰囲気の中で楽しくのびのびと暮らして頂ける様日々努力している。